

渡邊哲信 明治7（1874）年～昭和32（1957）年

広島県三原市西町の浄念寺に生まれた渡邊哲信は、明治35（1902）年から2年間、大谷光瑞（のちの浄土真宗本願寺派（西本願寺）第22世宗主）が率いる第一次大谷探検隊の隊員として、堀賢雄とともに、ユーラシア大陸を西から東へと横断し、パミール高原を越え、タクラマカン砂漠を横断した最初の日本人です。

哲信は、明治23（1890）年に広島中学（現・広島国泰寺高等学校）を卒業し、京都の西本願寺文学寮（現・龍谷大学）に入学しました。卒業後は、インド・パレスチナ・トルコを経由してロシアのペテルスブルグに1年ほど留学し、イギリスを経由して帰国しました。このような経験をしていたこともあり、大谷光瑞のヨーロッパ留学に際してはロンドンまで随行し、明治35（1902）年、第一次探検隊に参加することになりました。

隊員となったきっかけに、文学寮での運動会で、哲信ら3人の運動ぶりが光瑞の目にとまったともいわれています。

大谷探検隊の第一の目的は、仏教伝来のルートを明らかにすることで、その調査地はインドからガンダーラ、東南アジア、中国など、アジア各地に及びました。中国の新疆ウイグル自治区で最大規模の石窟寺院であるキジル石窟寺院（キジル千仏洞）（2014年シルクロード長安-天山回廊の交易路網の一部として世界遺産に登録）を世界で初めて調査したのは哲信です。

哲信の弟哲乗も第一次探検隊に参加した一人で、ビルマ（ミャンマー）からインドシナ半島を巡り、中国の雲南へ抜ける調査を行いました。

調査の内容は、昭和12（1937）年に刊行された記録集『新西域記』や哲信の「旅行日記」などによって知ることができます。また、現地からもたらされた資料の一部は、東京国立博物館と龍谷大学大宮図書館に所蔵されています。

晩年は三原に帰省し、浄念寺の住職をして過ごしました。

〔参考文献〕

- 「忘れられた明治の探検家 渡辺哲信」 白須浄眞 中央公論社 1992年
- 「シルクロードに仏跡を訪ねて 大谷探検隊紀行」 本多隆成 株式会社吉川弘文館 2016年
- 「平成20年度企画展 広島発 はるかなるシルクロード」広島県立歴史博物館 2008年
- 「郷土三原ゆかりの人たち」三原市立図書館・三原歴史民俗資料館 2003年